

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第94号

発行：2024年12月10日

発行者：浄土真宗本願寺派

長尾山 天龍寺住職 天野英昭

〒739-0147 東広島市八本松西6-10-1

☎・FAX 082-428-1360

行事予定（12月～3月）

月日（曜）	時間	行事	ご講師	場所
12/12（木）	14：00～15：30	歎異抄輪読会	松田正典先生	本堂
12/27（金）	13：00～17：00	仏教壮年会 除夜会準備作業		境内
12/31（火）	23：30～0：30	除夜会		本堂
1/17（金）	9：00～15：00	御正忌法座	呉市 西岸寺住職 長岡正信 師	本堂
1/31（金）	14：00～15：30	仏教壮年会定例会 仏教基礎講座	廣川鈴美 師	本堂
2/28（金）	14：00～15：30	仏教壮年会定例会 仏教基礎講座	廣川鈴美 師	本堂
3/20（木）	15：00～16：00	磯松天龍寺墓苑 春彼岸合同参拝		天龍寺 墓苑
3/26（水）	9：00～15：00	春季彼岸法座	志和町 光源寺住職 堀 靖史 師	本堂
3/31（月）	14：00～15：30	仏教壮年会定例会 仏教基礎講座	廣川鈴美 師	本堂

- ・1月以降の歎異抄輪読会はグループラインでお知らせ致します。
- ・ゆかりカフェは決まり次第お知らせします。皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

に が び ゃ く どう 「二河白道」・・・人生の方向性、目的Ⅲ

人間は煩惱の塊である故に「むさぼり・・・^{どんよく}貪欲」の毎日過ごし、一方でどこまでも自分の思い通りの人生を送ることが出来ないために「怒り・・・^{しんい}瞋恚」の毎日過ごしています。

仮に私に「二河白道」を歩まさせていただいている自分に気づかされなかったら、この一度の娑婆の人生は、ただ「むさぼり」「怒り」の人生だけで終わっていたと、しみじみ思うことです。

しかしながら、「二河白道の絵」の様に、むさぼり、怒りの毎日を過ごしながらも、その真ん中を浄土への道を歩ませていただいている自分に気づかせていただきました。

67年の人生の中で、何度「二河白道」の話を聞かせていただいたことかとも思いますが、残念ながら頭での理解であったことです。

以前「生きるために生きている。」とお話をいただいたことがありました。トラック競技の如く、スタートして、ただひたすら走り続けて、走れなくなったら終わり。人生に例えたならば、「死」、だと思ったことです。

「二河白道」のありがたいところは、「むさぼり、怒り」の毎日を過ごしながらも、釈迦の発遣のお声のもと、「きみただ決定してこの道を尋ねて行け。」の通り、お浄土へ向かう、明確な方向性・目的のある人生を歩み、「弥陀の招喚」の呼び声のもと「汝、一心に正念して、直ちに来たれ。」の大きな願いに導かれながら歩んでいる事も、自分勝手な思いかも知れませんが、私なりに実感したことです。この道こそが、これまで何十年にも渡ってご指南をいただいた「人生を貫く一本の道」としてと認識をしたことです。

親鸞聖人の和讃に「本願力に逢いぬれば、むなしくすぐる人ぞなし。」があります。哀しいかな娑婆の縁が切れるまで、様々な事に翻弄され、一喜一憂していく人生だと思いますが、「この境涯での全てのご縁を南無阿弥陀仏のご縁として、浄土へのご縁として、この一度の厳しい現実の人生を歩むことが出来ればと思います。」自分なりに少しでもむなしい人生を超えて行く人生を歩むことが出来ればとも思うことです。

「二河白道」を私なりに歩んでいる事を実感させていただいた時に、高飛車ながら「人生の中心点」をいただいたような感覚を覚えたことでもあります。(次号に続きます。) 合掌



今年も大変お世話になりました。来年もお導きの程よろしくお願い申し上げます。

南無阿弥陀仏